

横浜市立永田小学校

人とのかわりを大切にする子 自分で考え行動する子 心身ともにたくましい子



# 学校だより 12月号

令和5年11月30日（家庭数配付）

## いざという時に備えて！

校長 足立 渉

### 「金色の ちひさき鳥の かたちして 銀杏ちるなり 夕日の丘に」 与謝野晶子

秋が深まってきたこの時期になると、上の短歌を思い出します。今は4年生の国語で学習しますが、昔は6年生の教科書に載っていました。当時教えていた学級で「どんな様子を想像する？」と質問したところ「校庭にあるイチヨウの葉が落ちてくるのを、低学年の子が全力でつかもうとしている様子。」と発言した子どもがいたことを思い出します。今年は暖かい日が続き、例年より黄葉が遅いようだと言っていたのですが、ようやく本校のイチヨウの葉も色づき始めました。休み時間に子どもたちが、舞い落ちるイチヨウの葉をキャッチして遊ぶ姿もこれからのようです。



さて、少し前の話になりますが11月11日（土）体育館で地域防災拠点訓練が行われました。今年は関東大震災からちょうど100年目の年です。いつ起きても不思議でない大規模地震に備えて、永田のまちの人を守るために何をすればいいのか、何ができるのかを地域防災拠点運営委員と区役所の方々を中心に真剣に考え、計画を立てられていました。当日は前日の雨の影響もあり、体育館でのみ行う訓練となりましたが、「体育館の区割り」を行ったり、応急手当の仕方を教わったり、心臓マッサージ・AEDを使う救命訓練を行ったりしました。

参加し、今でも印象に残っていることは、皆さんが真剣に訓練に取り組まれていた姿です。この訓練のベースとなる『「地域防災拠点」開設・運営マニュアル』の「はじめに」にも書かれていますが、地震発生から72時間までの間を目安に、運営委員の方々と避難者の方々が一丸となって地域防災拠点を開設、運営していくことが大切です。そして、「共助」の精神で、避難者全員が運営の支援を担うことの大切さも記されています。つまり人任せにするのではなく、他者のために自分ができることを率先して取り組んでいく姿勢が、災害時には必要です。学校でも「共助」の姿勢を子どもたちに指導していきます。また、大規模地震など起きないにこしたことはないのですが、いざという時に備えて準備、訓練していくことの大切さをあらためて実感しました。学校でも、地震を含めた災害等に備え、しっかりと指導と訓練に努めて参ります。ご家庭でも、折にふれていざという時の対応についてお子様と話題にしてください。今月もよろしくお願いたします。